

外部との連携

他機関との連携

◆他機関との連携、組織間連携支援

市内等他機関との連携により、情報提供の一体感を醸成しながら、市役所やコーレ等他組織との機能分担し、情報ライブラリー等の情報共有を図ります。状況が整えば、他機関と合同で、プログラムを実施します。

商店街との連携

◆中心市街地の活性化支援

黒部市立地適正化計画を踏まえ、鉄道・バスの公共交通ネットワークの構築や居住誘導を図ります。シニア世代の経験・知識を活かした若年層への支援・育成、新たな価値と地域力の創造拠点となり、若年層が成長し人々が躍動することなどで、活気ある中心市街地の再興を図ります。

●基本構想から実施設計までのスケジュール

- 基本構想の内容を踏まえ、設計業務に関する設計者選定手法の検討・施設設計を行います。
- また、民間委員による組織を立ち上げ、施設運営計画（図書館等の管理運営検討）の検討を行います。

項目	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度以降
基本構想（策定委員会）	←→				
基本構想（庁内検討）	←→				
設計者選定手法検討			←→		
施設設計				←→	
施設運営計画の検討		←→		←→	
建設工事（旧黒部庁舎解体等を含む）					←→

●（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会 講演会

わたしの“サードプレイス” 次世代に向けた機能融合施設の活かし方

とき 平成30年11月18日（日）14時～16時
 ところ 黒部市役所 201～203 会議室
 主催 黒部市教育委員会
 講師 松本大学図書館長 伊東 直登氏

半端ない！図書館



■講師プロフィール

元塩尻市民交流センター兼図書館長、日本図書館協会図書館施設委員会委員（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会アドバイザー

若年層の活躍と人の躍動による黒部の中心市街地再興をめざし、居住・都市機能誘導施策として整備される「（仮称）くろべ市民交流センター」に関し、図書館を核とした機能融合施設の重要性についての講演会を開催。

（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画策定委員会
 について

平成30年11月 黒部市

○本管理運営計画は、詳細な事業内容・施設内容・最終的な配置をはじめ、様々な角度から分析・検討を加えながら、これまでにない斬新な複合施設として、更なる生涯学習、文化力の向上と市民交流及び市民協働参画の推進並びに新庁舎と連携してのまちなかの賑わい創出を図る「（仮称）くろべ市民交流センター」の具体的な管理運営の方向性や計画をとりまとめたものです。

（仮称）くろべ市民交流センター基本構想 基本コンセプト

『市民が集い学ぶ文化・交流の拠点』を基本コンセプトとして、図書館を核に、子育て支援や未来の黒部市を担う子どもたちの育成、まちの賑わいや活性化を推進するための交流促進や活動団体等への支援、生涯学習や情報の収集・発信・保存など、市民の知的好奇心を満たす多機能を有する交流拠点づくりを行います。



（仮称）くろべ市民交流センター基本構想 基本方針

基本コンセプトを踏まえて、（仮称）くろべ市民交流センター建設の基本方針を設定しました。

- 地域の交流・情報センターとして機能性あふれる図書館を核に、市民の文化活動、生涯学習の充実につながる施設
- 図書館と子育て支援が融合する施設
- 市民の交流やまちの賑わいを創出し、市民活動を支える施設

（仮称）くろべ市民交流センター管理運営計画方針

「（仮称）くろべ市民交流センター建設基本構想」を踏まえ、『市民が集い学ぶ文化・交流の拠点』として5機能の役割を果たすために、3点の管理運営方針を設定します。

方針1	5機能融合と多様な人材交流による新しい文化と価値の創造 ・ 図書館を核とし、すべての機能を融合させ、新しい文化と価値を創造する。 ・ 世代や職種を超えた人や情報の出会いを促す。
方針2	市民による新たな知的創造活動を生むための情報の収集と活用の促進 ・ 市民生活や進学・就業等に役立つ情報を収集し、提供するとともに、それを利用する市民が新たな知識や価値を生み出し、発展を促す。
方針3	効果的・効率的な管理運営 ・ 各機能の融合により、施設全体の弾力的な運用やスペースを共用化・集約化するなど効果的で効率的な運営を行う。

基本構想にある「基本コンセプト」と、「図書館を核」とした5機能について、さらに具体的な事業内容を実現するために、管理運営計画のメインコンセプトを設定しました。

『わたしの“サードプレイス”』 ～家でも、学校や会社でもない、第3の居場所～

- ①居心地の良い自分の居場所……気軽に寄り、集える場所で、つい時間を忘れるくらい長く滞在でき、いつでも戻ってきたく場所
- ②市民生活を豊かにする場所……「子育て」「結婚」「セカンドライフ」などライフステージに応じた問題解決に役立つ場所
- ③自らの可能性に気づき、挑戦する舞台を探す場所……進路(進学・就活・起業)について探究する場所

⇒“サードプレイス”として、**新たな価値の創造を『アシスト』**する。

各施設の事業方針

既存施設の機能を継続、発展させていきます。

①『ライフステージ』をアシスト(黒部市立図書館)

- ①市民生活を豊かにする「本・情報・知の拠点」として、人生の課題・問題の解決、進学・就業・子育てなど若年層の巣立ち、あるいは生涯学習・自己研鑽をアシストする。
- ②「人と人」「人と本」「人と情報」を結ぶとともに、仲間探しや各世代の交流により、知恵袋の「人材図書館」として、互いに成長することから生まれる価値や創造、まちの賑わいや魅力づくりをアシストする。
- ③誰もがいつでも気軽に行ける、また行きたくなる憩いの場所として、滞在したくなるイメージを醸し出し『わたしの“サードプレイス”』というコンセプトをもとに、萌え出る知的探求心をアシストする。

②『子育て』をアシスト (子育て支援センター)

●子育てに関する様々な相談に応じるとともに情報収集や親同士の交流ができ、親子がふれあい、安心して一緒に過ごせる場所を提供する。



⑤『ビジネス』をアシスト (図書館、他機関等と連携)

●学生のうちからあらゆる可能性を引き出し、個々の活躍の舞台にナビゲートする知恵袋の拠点として、市民参画のもと、進学・就活・起業など巣立ちに寄り添い、明日を切り開く力を育むなど青少年やビジネスをアシストをする。

③『生涯学習』をアシスト (三日市公民館、働く婦人の家)

●様々なライフステージに応じた活動を通して、人間性・道徳性を育み、豊かな人間発達の拠点として、市民の生涯学習をアシストする。

④『市民活動』をアシスト (市民会館)

●市民が主体的にまちづくりに関わり、人々が交流し、新しい価値観を探索し、新しい文化の創造力・発信力、社会への適応力を育むなど市民活動をアシストする。

【ワークショップでの議論の例】

- 図書館では、黒部についての資料収集を積極的にしてほしい。
- 図書館が夜8時に閉館しても、その後も閉館まで学習室を使えるような配慮が欲しい。
- 5つの機能融合施設なので、職員にも一体感、情報共有が必要だ。
- お母さんが安心して図書館を利用できるように乳幼児の一時預かりがあるとよい。
- まちの賑わい創出の拠点施設となるためには、商店街との連携が必要。

管理運営計画策定委員会



民間委員による委員会を7回開催 (H30.3~H31.2)

先進地視察

塩尻市市民交流センターを視察。(H30.6.3)



策定委員、WSメンバー合同での視察。伊東直登アドバイザーによる講演もあり、一足先に機能融合について体感。

U-18 ワークショップ

桜井高校生によるWSを2回開催。(H30.3.26、H30.7.31)



桜井高校生は公共施設やショッピングセンターなどで、放課後を有意義に過ごす『サードプレイス』を学校周辺に求めていることが分かりました。



部活動での特技を活かした高校生のイベントへの参画や情報をインスタで世界に発信など、高校生たちが「僕の、私のまち」の活性化について真剣に議論。

ワークショップ

昼の部、夜の部合わせて8回開催(H30.4~H30.10)



15人のメンバーが昼の部、夜の部に分かれて1回2時間、合計4回にわたり、市民目線で活発に議論。率先して先進事例を調べるなど、回を重ねるにつれてメンバーの議論も深まり、市民の縦割りが一足先に機能融合へ。開業後は市民活動のパイオニア的存在となってくれるのでは、と期待が持てます。

ニーズ調査

三日市納涼楽市にて聞き取りによるアンケートを実施。(H30.8.3~30.8.4)



三日市の空き店舗を借りて、基本構想のパネル展を同時開催。2日間で263名の方から回答いただき、そのうち51.3%の方が交流センター事業を『知っている』と回答。アンケート回答者には図書館の除籍本をプレゼントしました！

【U-18 ワークショップでの議論の例】

- 放課後、安全で有意義に過ごす場所が欲しい。
- 友人と相談しながら勉強できるようなスペースが欲しい。
- 著名人の講座を地元でも受けたい。
- 部活動での特技を活かして行事に協力したい。
- 飲食ができるといい。
- FreeWi-Fi やスマホの充電ができるといい。
- 図書館に受験勉強をサポートしてくれるような資料がそろっていると嬉しい。
- 私たちの暮らすまちの賑わいのために、高校生でもできることがあると思うので、参加してみたい。